

富山市総合計画審議会
第 2 回 安 心 部 会

会 議 資 料

平成 1 7 年 1 1 月

富山市企画管理部
企 画 調 整 課

安 心 部 会 要 旨

【教育に関すること】

ゆとり教育の見直しや総合的学習の取扱いについて、国が人間観を設定していないことが問題

富山市として独自の理念を追求してはどうか。

生きる力の背骨(バックボーン)になるような教育理念・教育目標が必要

アメリカでは、普遍的な価値観は教師が教えるべきであるというふうに変ってきている。

人格教育の重要性を再認識し、学校や家庭で価値観を教育するといった取組みを行っても良いのではないか。

結婚に関する教育も必要。

結婚教育に関しては、学習指導要領には無いが、学校教育の中ではどこでやるのか、難しい問題ではないか。

性の問題は、学校で教えるには限界がある。

結婚や性に関しては、本来、家庭で教えるもの。学校では、愛を教える。

地域教育を初めとして世の中全体が勉強し直す必要がある。

地域社会がコミュニティ教育を担う、教育の地方分権化も大事であろう。

先生の質の問題もあるのではないか。教える側を教える必要はないか。

旧富山市では、地域が学校を後押しするような実態が元々あった。学校評議員制度を導入するにしても、目的を明確にしておかないと屋上屋になる心配がある。

自分の地元校区では、学識経験者と PTA、自治振興会長等でそういった組織を作って学校の評価を行っているようだ。ただし、教師の評価は行わない。

【福祉に関すること】

高齢者にとって一番の不安は、一人身になること。

高齢単身者は、衣・食はなんとかなるが、住の問題が深刻であり、独居用の公営住宅が必要。

喫緊の課題は、介護、雇用、女性の就労やニートの対策。また、これらの問題について、現実と認識のギャップがある。

市民の個別具体的なニーズに対応できるような施策が必要。

【雇用に関すること】

都市の魅力と 20 代の女性の数に、何らかの関係があるのか。また、富山大学は、70%位が県外生だと思うが、どう定着させるか。それらをどう指標に反映させられるか。

評価指標では、住みたいというニーズが高く現れているが、果たしてそうだろうか。大学進学者の多くは県外に出て、30%位しか帰ってきていないのではないか。

【保健・医療等に関すること】

【その他全体に関すること】

地域別ワークショップでの議論にも期待したい。

大きな柱は、「人づくり」と「自然との調和」。

グローバル（グローバル＆ローカル）な視点が大事。

骨太は何で、末梢は何かを明確にする。

部会の協議の中で、「柱となるもの」が見えてくるのではないか。

新市建設計画を見ても漠としているが、これを具体化するのが部会の仕事

価値観が多様化するとともに、地域社会が希薄化してきている。

人づくりや人づくりをしていく地域の在り方を見直し、何か確かなもの、伝えるべきものを伝え育てていく。

人づくりとは、自分達がやってきたことをきちんと伝えればよいはずだが、それが上手くいっていない。

非婚率の現状把握は必要であると思う。

少子化、高齢者、雇用問題は、それぞれニーズが違うので、一緒に議論するのはいかなものか。

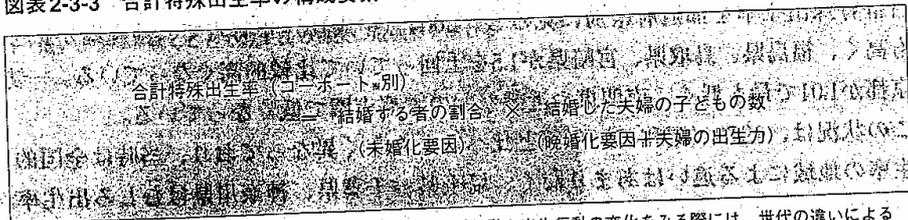
ワークショップやパブリックコメントなどで若い人の意見を取り入れたい。

社会が発展してこそ個人の発展がある。行政にしてもらう以前に、自分達で何ができるか考え、できることをやるという姿勢が大事。

個々があって集団が成り立ち、集団があってこそその個々である。

誤解を招く恐れがある指標は、無理矢理出さなくてよい。

図表2-3-3 合計特殊出生率の構成要素の分解 (イメージ)



※ コホートとは、同一出生年の集団のことをいう。結婚行動や出生行動の変化をみる際には、世代の違いによる変化が大きいため世代別の状況を把握する必要がある。

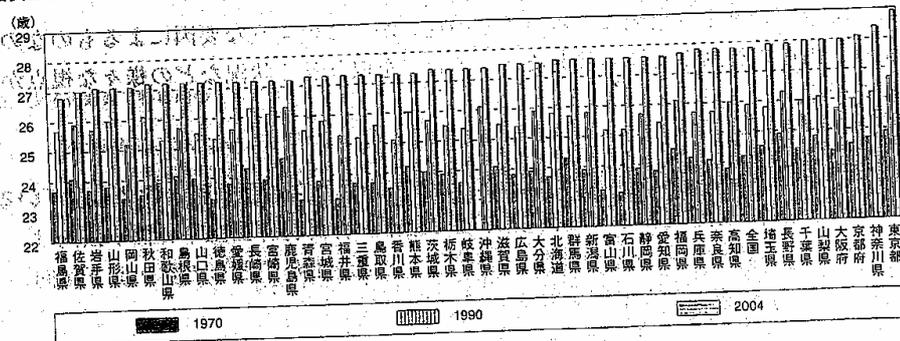
(全国的に広がる晩婚化)

まず、晩婚化を表す指標として、女性の平均初婚年齢を見てみると、1950年代後半から1980 (昭和55) 年頃まではおおむね24~25歳で推移していたが、その後、上昇を続け、2004 (平成16) 年では27.8歳となっている。

これを都道府県別に見ると、東京都は従来から比較的、平均初婚年齢が高く、1970 (昭和45) 年で24.9歳だったのが、2004年には28.9歳となっている。一方、1970年には石川県が23.1歳、2004年では福島県が26.8歳でそれぞれ最も低くなっている。しかし、地域差には大きな変化はなく、どの地域も同様に晩婚化が進んでいる。

図表2-3-4▶

図表2-3-4 都道府県別の女性の平均初婚年齢



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」
 (注) 2004年の平均初婚年齢の低い順に左から並べている。

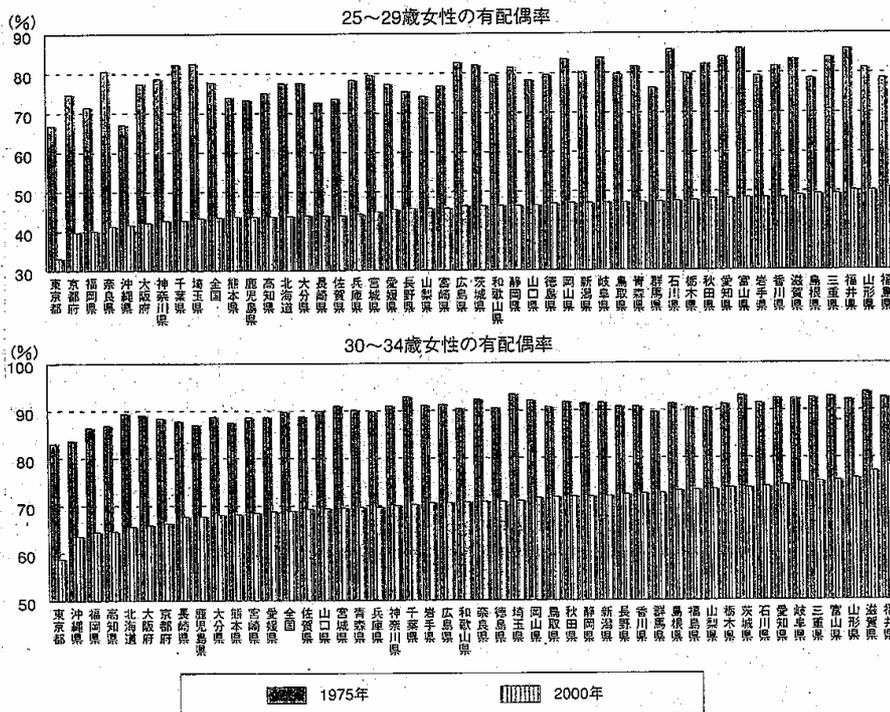
(都市部で特に進行している未婚化)

未婚化を表す指標としては、50歳時点で未婚でいる者の割合である生涯未婚率が一般的であるが、1980（昭和55）年は男性が2.6%、女性が4.5%であったものが、その後上昇し、2000（平成12）年時点で男性が12.6%、女性が5.8%となっている。

また、現在、出産期を迎えている世代、すなわち25～29歳と30～34歳の女性の有配偶率をそれぞれ都道府県別に見ると、25～29歳では、1975（昭和50）年はどの地域も70～80%程度であったが、2000年には40～50%となっており、全国的に有配偶率の低下、すなわち未婚化が見られる。同じく30～34歳の女性有配偶率を見ると、1975年は80～90%程度あったものが、60～80%程度に低下している。また、30～34歳女性について、この指標の地域による違いを見ると、この25年間で東京都は24.4%低下したのに対し、福井県は14.3%の低下にとどまっており、地域による未婚化の状況の差が拡大傾向にある。

◀ 図表2-3-5

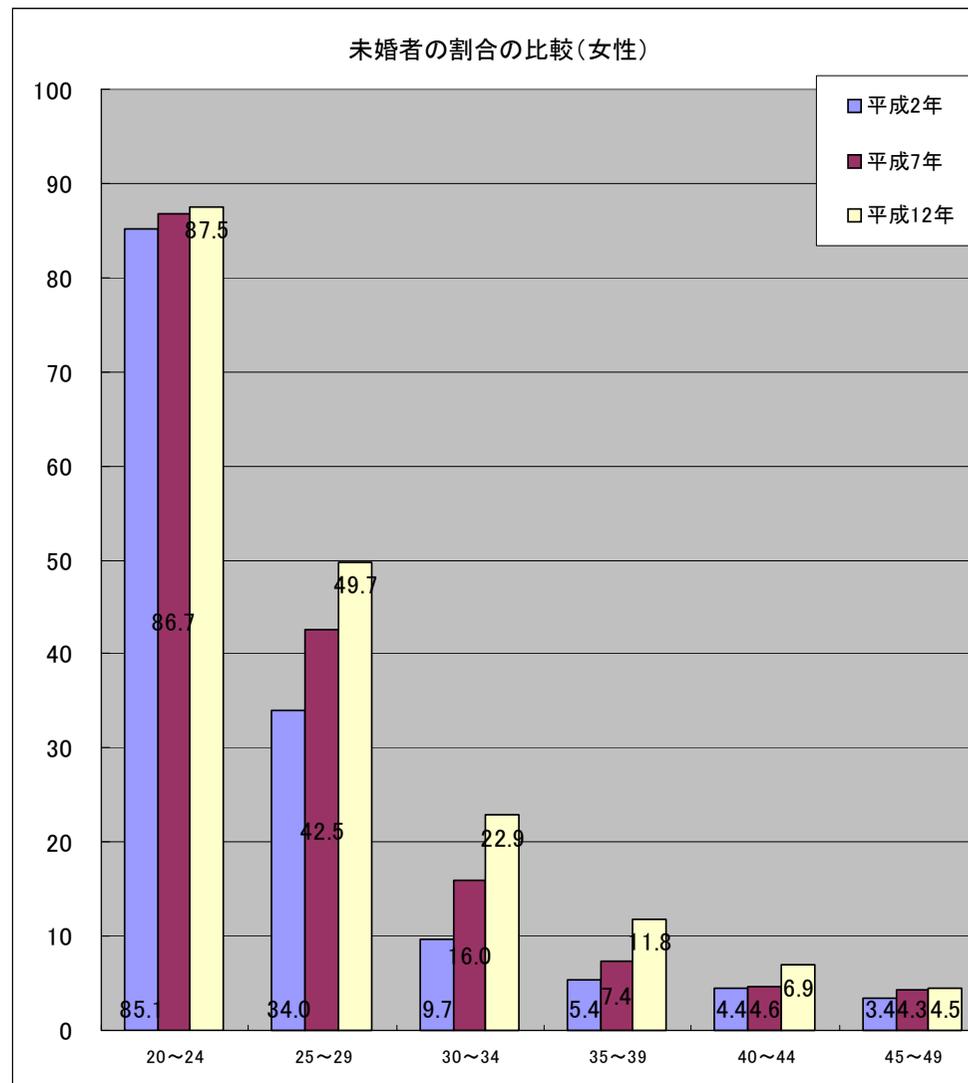
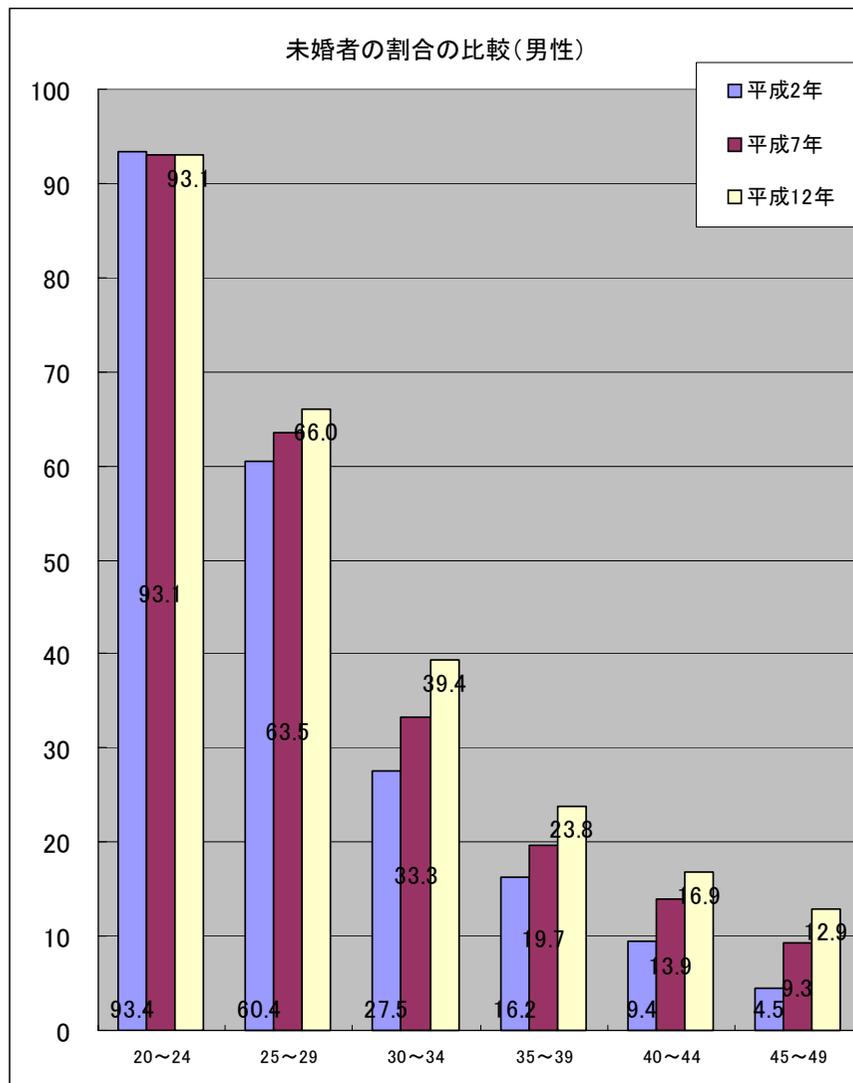
図表2-3-5 都道府県別に見た女性の有配偶率



(注) 総務省統計局「国勢調査」から、厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成
2000年の有配偶率が低い順に左から並べている。

平成2年・7年・12年の国勢調査の結果から

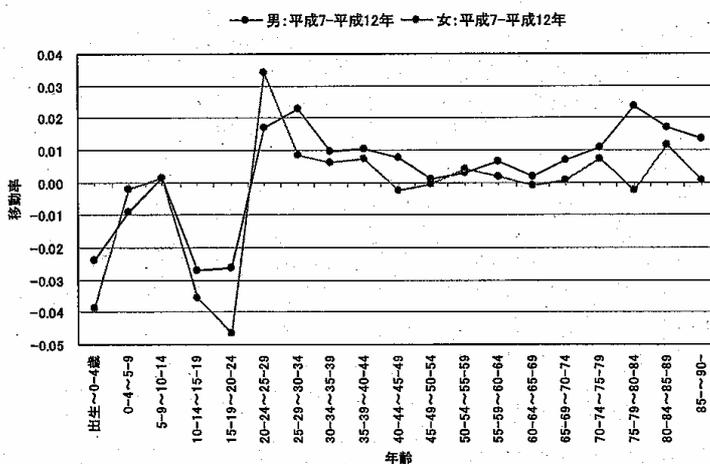
5歳階級別 (歳)		15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85歳以上	総数	
平成 2年	男	総数(人)	13,032	10,475	9,540	9,132	10,915	14,346	12,142	10,401	9,772	8,567	6,027	4,590	3,683	1,933	948	125,503
		未婚(人)	13,002	9,781	5,759	2,511	1,763	1,344	546	281	192	123	75	29	20	4	7	35,437
		未婚者の割合(%)	99.8	93.4	60.4	27.5	16.2	9.4	4.5	2.7	2.0	1.4	1.2	0.6	0.5	0.2	0.7	28.24
	女	総数(人)	12,620	10,480	9,852	9,340	11,273	15,031	12,638	10,810	10,535	9,545	8,041	6,403	5,415	3,622	2,192	137,797
		未婚(人)	12,540	8,914	3,350	902	604	663	426	318	327	273	184	82	34	29	17	28,663
		未婚者の割合(%)	99.4	85.1	34.0	9.7	5.4	4.4	3.4	2.9	3.1	2.9	2.3	1.3	0.6	0.8	0.8	20.80
	計	総数(人)	25,652	20,955	19,392	18,472	22,188	29,377	24,780	21,211	20,307	18,112	14,068	10,993	9,098	5,555	3,140	263,300
		未婚(人)	25,542	18,695	9,109	3,413	2,367	2,007	972	599	519	396	259	111	54	33	24	64,100
		未婚者の割合(%)	99.6	89.2	47.0	18.5	10.7	6.8	3.9	2.8	2.6	2.2	1.8	1.0	0.6	0.6	0.8	24.34
平成 7年	男	総数(人)	10,940	13,330	11,333	9,991	9,338	10,971	14,408	11,971	10,129	9,296	7,950	5,370	3,787	2,556	1,380	132,750
		未婚(人)	10,873	12,404	7,194	3,323	1,838	1,530	1,339	538	262	157	101	58	21	15	6	39,659
		未婚者の割合(%)	99.4	93.1	63.5	33.3	19.7	13.9	9.3	4.5	2.6	1.7	1.3	1.1	0.6	0.6	0.4	29.87
	女	総数(人)	10,184	12,551	10,961	9,871	9,432	11,263	14,864	12,494	10,695	10,364	9,249	7,661	5,911	4,585	3,590	143,675
		未婚(人)	10,091	10,882	4,659	1,578	696	518	644	394	316	305	269	167	74	29	26	30,648
		未婚者の割合(%)	99.1	86.7	42.5	16.0	7.4	4.6	4.3	3.2	3.0	2.9	2.9	2.2	1.3	0.6	0.7	21.33
	計	総数(人)	21,124	25,881	22,294	19,862	18,770	22,234	29,272	24,465	20,824	19,660	17,199	13,031	9,698	7,141	4,970	276,425
		未婚(人)	20,964	23,286	11,853	4,901	2,534	2,048	1,983	932	578	462	370	225	95	44	32	70,307
		未婚者の割合(%)	99.2	90.0	53.2	24.7	13.5	9.2	6.8	3.8	2.8	2.3	2.2	1.7	1.0	0.6	0.6	25.43
平成 12年	男	総数(人)	9,037	11,167	13,123	11,292	9,848	9,248	10,888	14,068	11,553	9,657	8,617	7,104	4,448	2,743	1,957	134,750
		未婚(人)	9,005	10,396	8,656	4,452	2,346	1,565	1,404	1,177	492	236	128	77	36	16	12	39,998
		未婚者の割合(%)	99.6	93.1	66.0	39.4	23.8	16.9	12.9	8.4	4.3	2.4	1.5	1.1	0.8	0.6	0.6	29.68
	女	総数(人)	8,489	9,981	12,868	10,718	9,738	9,397	11,069	14,602	12,303	10,487	10,057	8,830	7,116	4,941	5,103	145,699
		未婚(人)	8,447	8,737	6,400	2,453	1,151	650	500	594	374	284	283	239	169	56	43	30,380
		未婚者の割合(%)	99.5	87.5	49.7	22.9	11.8	6.9	4.5	4.1	3.0	2.7	2.8	2.7	2.4	1.1	0.8	20.85
	計	総数(人)	17,526	21,148	25,991	22,010	19,586	18,645	21,957	28,670	23,856	20,144	18,674	15,934	11,564	7,684	7,060	280,449
		未婚(人)	17,452	19,133	15,056	6,905	3,497	2,215	1,904	1,771	866	520	411	316	205	72	55	70,378
		未婚者の割合(%)	99.6	90.5	57.9	31.4	17.9	11.9	8.7	6.2	3.6	2.6	2.2	2.0	1.8	0.9	0.8	25.09



社会移動

- ・社会移動については、社会保障・人口問題研究所予測では「住民基本台帳人口移動報告」より年齢別、地域別に集計した数値を利用している。
- ・この処理を行うと膨大なデータ処理を伴うため、ここでは生残率を利用した封鎖人口（人口移動がないとした場合の人口）を算出しこれを基に社会移動を逆算した。
- ・富山市の年齢別の移動を見てみると、高校卒業（大学進学）時の転出と若年層（大学卒業時）の転入が目立っている。

図 富山市男女・年齢別移動率(社人研)



- ・社会増減を時系列で見ると、高度経済成長期以来、転出が続いている。特に富山地域で平成12年(2000年)に転出超過となっているのが大きい。

図 社会増減

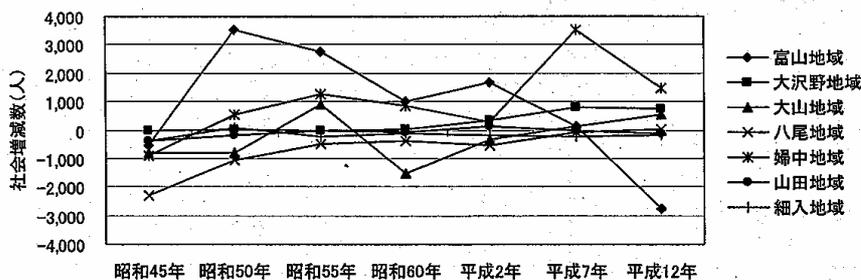


表 地域別の社会増減

	昭和45年 1970年	昭和50年 1975年	昭和55年 1980年	昭和60年 1985年	平成2年 1990年	平成7年 1995年	平成12年 2000年
富山地域	-530	3,542	2,779	1,031	1,691	119	-2,776
大沢野地域	-7	47	-46	21	327	788	742
大山地域	-775	-775	902	-1,500	-312	144	518
八尾地域	-2,291	-1,035	-504	-377	-519	-52	49
婦中地域	-887	553	1,249	862	264	3,519	1,460
山田地域	-402	-183	-39	-75	105	-48	-129
細入地域	-407	97	-241	-131	-156	-244	-204

・ここでは、直近のデータである平成12年(2000年)10月～平成16年(2004年)9月の転出入データを使用して社会増減を設定する。

表 旧市町村別転出者数

		転入				転出				転入 - 転出
		総数	県内他地域	県外	その他	総数	県内他地域	県外	その他	
平成13年 平成12年10月1日 ～ 平成13年9月30日	富山市	13,992	3,539	10,261	192	14,015	3,318	10,520	177	-23
	富山地域	12,090	2,973	8,946	171	12,186	2,843	9,186	157	-96
	大沢野地域	463	90	366	7	489	94	391	4	-26
	大山地域	233	116	114	3	225	107	118	0	8
	八尾地域	378	94	278	6	352	95	256	1	26
	婦中地域	782	254	523	5	694	166	514	14	88
	山田地域	17	8	9	0	38	9	29	0	-21
細入地域	29	4	25	0	31	4	26	1	-2	
平成14年 平成13年10月1日 ～ 平成14年9月30日	富山市	13,345	3,508	9,662	175	14,001	3,264	10,648	89	-656
	富山地域	11,476	2,868	8,449	159	12,199	2,794	9,323	82	-723
	大沢野地域	493	135	345	13	463	100	360	3	30
	大山地域	220	120	100	0	212	102	109	1	8
	八尾地域	349	120	226	3	421	89	329	3	-72
	婦中地域	762	254	508	0	664	167	497	0	98
	山田地域	22	5	17	0	17	10	7	0	5
細入地域	23	6	17	0	25	2	23	0	-2	
平成15年 平成14年10月1日 ～ 平成15年9月30日	富山市	13,836	3,532	10,088	216	13,685	3,200	10,246	239	151
	富山地域	11,947	2,953	8,792	202	12,002	2,750	9,019	233	-55
	大沢野地域	436	91	343	2	444	102	340	2	-8
	大山地域	226	100	123	3	213	99	114	0	13
	八尾地域	383	102	280	1	309	76	232	1	74
	婦中地域	806	278	521	7	678	164	513	1	128
	山田地域	17	5	12	0	9	0	9	0	8
細入地域	21	3	17	1	30	9	19	2	-9	
平成16年 平成15年10月1日 ～ 平成16年9月30日	富山市	13,687	3,595	9,860	232	13,303	3,186	9,954	163	384
	富山地域	11,832	3,012	8,599	221	11,540	2,653	8,732	155	292
	大沢野地域	430	111	318	1	361	88	273	0	69
	大山地域	213	102	111	0	238	119	119	0	-25
	八尾地域	346	113	227	6	343	92	249	2	3
	婦中地域	819	244	571	4	775	230	544	1	44
	山田地域	26	8	18	0	18	1	17	0	8
細入地域	21	5	16	0	28	3	20	5	-7	
合 計	富山市	54,860	14,174	39,871	815	55,004	12,968	41,368	668	-144
	富山地域	47,345	11,806	34,786	753	47,927	11,040	36,260	627	-582
	大沢野地域	1,822	427	1,372	23	1,757	384	1,364	9	65
	大山地域	892	438	448	6	888	427	460	1	4
	八尾地域	1,456	429	1,011	16	1,425	352	1,066	7	31
	婦中地域	3,169	1,030	2,123	16	2,811	727	2,088	16	358
	山田地域	82	26	56	0	82	20	62	0	0
細入地域	94	18	75	1	114	18	88	8	-20	

資料：富山県の人口